

ICT を活用したオンライン授業実践事例

ムンバイ日本人学校 音楽科 北川翠

本実践を考証するにあたり

時間芸術である音楽をオンラインで行うためには、双方向のタイムラグが抑えられるほど有効な教育効果が得られると考える。歌唱、器楽の表現活動は対面で空間を共にすることが理想ではある一方、コロナ感染予防の観点からは他教科に比し感染リスクが高い活動であると言わざるを得ない。常時、音楽活動をオンライン授業で対面と遜色なく行うことができれば、児童生徒の安全の確保と充実した教科教育の双方が実現できるのではないかと本 ICT 助成事業の本校の成果に大いに期待し取り組んだ。

小学部第 4 学年 音楽科授業実践報告

【日時】 令和 2 年 1 月 14 日(木)5 校時

【場所】 指導者 ムンバイ日本人学校、 児童 日本

【単元名】 インド国歌を歌おう

【単元の指導目標】

- ・インド国歌「ジャナガナマナ」を歌い、打楽器を加えて演奏する。(歌唱・器楽表現の領域)
- ・インド国歌の曲想や特徴をとらえ、学校の友だちが歌うための動画をつくる。(鑑賞の領域)

【使用する ICT 機器】

Zoom PowerPoint ScoreMaker(楽譜制作、演奏ソフト) PowerDirector(動画編集ソフト)

【本時の展開】

日本・ムンバイ間 Zoom オンライン授業 40 分

単元5時間中の3時間目

本時の展開

	学習活動	ICT の活用・動作状況
導入	・常時活動 リズム作品づくり ScoreMaker を用いて8小節のリズム作品をつくる。音色や速度も再生して聴きながら選ぶ。作品ができたら再生し、手拍子奏をする。	・ScoreMaker を再生しながら演奏することで、目で楽譜を読み、耳で音を合わせながらリズム練習をすることができる。
展開	・本時のめあてを確かめる。 「インド国歌の特徴にあった動画スライドをつくろう」(鑑賞) ・インド国歌を録画した動画を見ながら歌う。 ・同動画を見ながら打楽器でリズム奏をする。 ・家にあるものを打楽器にする。バケツ太鼓や画鋸マラカスなど。 ・インド国歌の練習動画づくり。(前時から継続) 動画制作の観点 曲のテンポや雰囲気合う構成にする。	・PowerPoint で学習内容を確認する。 ・児童の意見や気づいたことは共有画面のペンで書きこむ。 ・宿題で 12 月に録画した動画を画面共有再生し、一緒に歌う、演奏する。動画再生のタイムラグがないことで児童がストレスなく歌うことができる。教師の範唱もズレなく入れることができる。 ・PowerDirector を使い、背景や写真を選択する。 ・通信がスムーズであることで、画像と音声のずれや歌詞のタイミングを細かく確認、調整することができる。

	<p>新1年生が見て練習しやすい動画をつくる。 ムンバイの様子を伝えられる動画をつくる。</p> <p>【評価の観点】 インド国歌の曲想をとらえ、自分の思いをもって動画の構成を提案している。(鑑賞)</p>	
まとめ	<p>・本時で修正した動画を見てインド国歌を歌う。 ・本時を振り返り、次時の活動内容を確認する。</p>	<p>・動画再生をして歌う。 ・PowerPoint に成果や課題をまとめる。</p>

【成果】

成果1 非常時におけるオンライン授業において、学校 LAN 回線の改善前後で、どのような学習効果が得られたか。

・音楽演奏のタイムラグが大きく改善され、歌唱・器楽表現活動を効果的に行えるようになった。

改善前は双方の音声伝達のタイムラグがしばしば生じ、「歌う」「楽器を弾く」活動で制約が多かった。改善後はタイムラグが減少し、教師と一緒に歌ったり、再生音源に合わせて歌ったり、児童の表現技能の指導に効果があつた。鑑賞の領域でも音質を損なわずに楽曲を聴くことができ、曲想の理解や考えを深めることができた。

・感染予防の観点から音楽科授業をオンライン授業に切り替えることへのデメリットが軽減された。

音楽活動は飛沫感染のリスクが他教科よりも高いと言えるが、LAN 回線が改善されたことによりオンラインにおいても音楽活動が幅広く行えることになり、非常時には躊躇なくオンライン授業に切り替えられる素地ができた。より児童生徒の安全を重視し、かつ学びの充実を求めた学校運営の一助になったと言える。

成果2 LAN 回線が改善することによりできるようになった新たな取り組み、それによりどのような学習効果が得られたか。

・動画再生を行いながらの音楽活動

改善前から案としてはもっていたものの、音源のみの再生よりもタイムラグが大きく選択肢から外さざるを得なかった。動画は音声に加え視覚効果も得られるため学習効果が高まったと言える。鑑賞においては映像と音の親和性、表現活動においては楽譜やダンスを見ながらの演奏活動が可能になった。

・楽譜作成ソフトを用いた音楽づくり、演奏指導

従前は教科書や教師作成の紙資料を用いてリズムづくり、演奏を行っていた。オンライン授業で ScoreMaker を児童と共有して学習したところ、即時楽譜作成、再生、演奏が可能になり、児童の意欲の向上が見られた。オンライン、対面を問わず今後も活用できる成果となった。

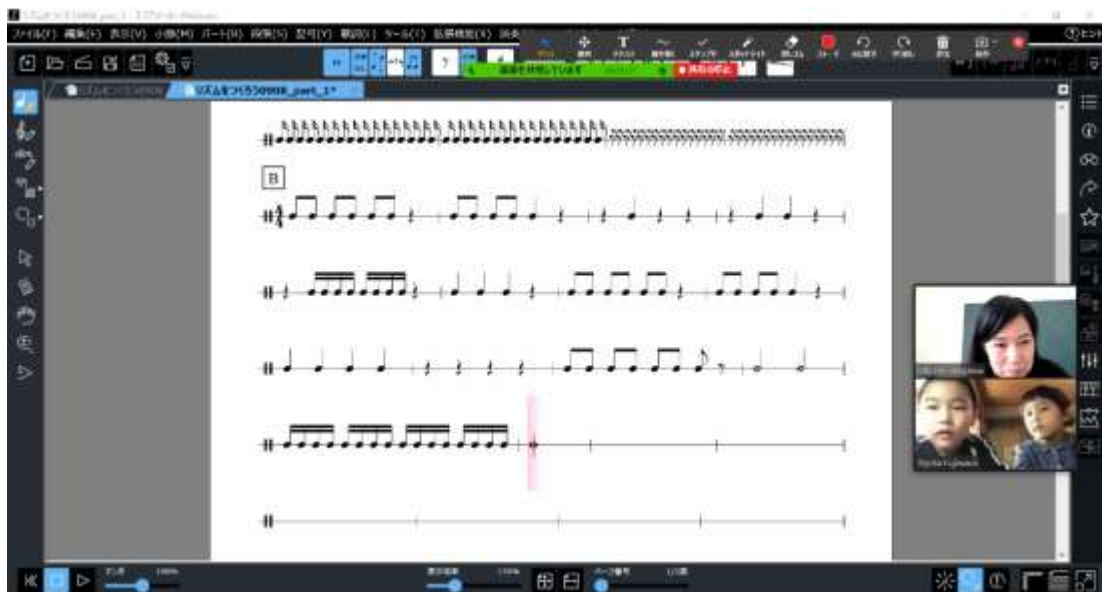
【課題】

・かなりの改善は見られたものの、多少のタイムラグが発生することがある。特に低学年児童の指導時においては、そうしたラグを考慮し、児童が音楽に違和感をもたないようなフォローが必要となる。

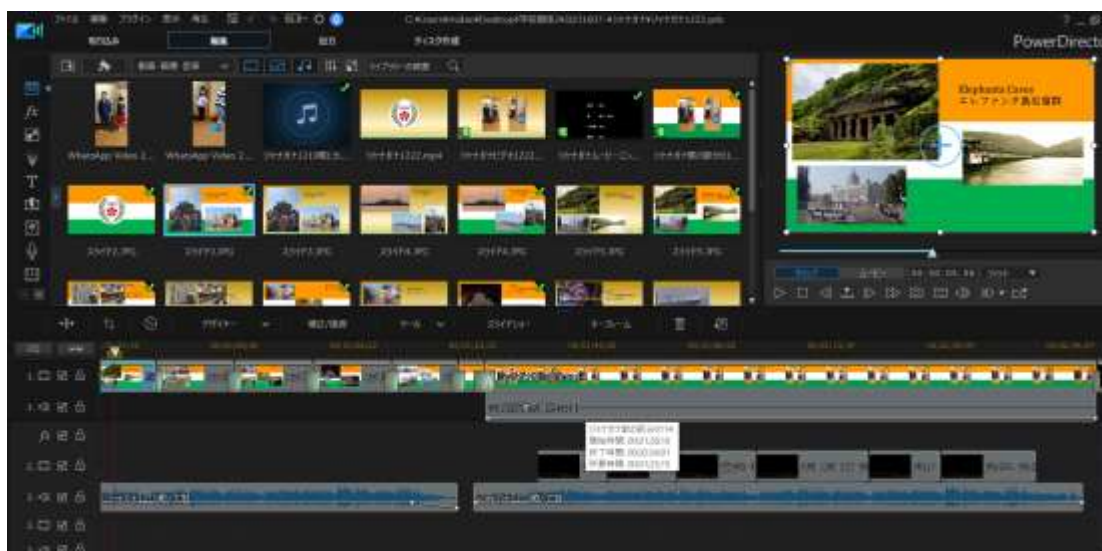
・オンライン授業における器楽活動では手を添えた演奏補助等を行うことができない。それに代わる範奏動画やスライドなどをより一層の授業準備が不可欠である。

・歌唱技能の評価において、空間を共有していない歌唱を評価することに難しさを感じる。姿勢や声の勢いを正確に見とることが困難なため、オンライン上の評価規準をもつことが求められる。

【資料】 授業実践風景



ScoreMaker を用いたリズム作品づくり、演奏活動 籍児童が現在1名のため、妹さん(未就学児)も特別参加。



PowerDirector を用いた音楽動画づくり



作成した動画を再生しながらの演奏活動 ※在籍児童が現在1名のため、妹さん(未就学児)も特別参加。

